

## ●「ペリカン」の古郷 (口繪參照)

理學士 平 坂 恭 介

北米合衆國で メンヘイデン 餅 より人造『鳥糞』ガソウを製造するのは重要なる工業の一である。然るにペルーに行くと同じ様に多量の『鳥糞』が、造作無く天然に得られる。

ペルーの『鳥糞』が名物となつたのは、主として下の三つの原因に依る、即ち一、海鳥の多數に棲息せる事、二、海鳥の食餌たる魚類の豊富なる事、三、氣候の乾燥せる事で、一と二とは勿論明かな事であるが、氣候が其一大因子である事は一寸豫想外である、一と二の状態を具備して居る所は、多々あるが、依然、ペルーの『鳥糞』が其聲價を保ちつつあるのは、其氣候に因るのである。即ちペルーの如く乾燥の度甚しきにあらざれば、含窒素成分は化してアムモニアとなりて去り、比較的安價なる『燐酸鳥糞』となるのである。

所謂『鳥糞』と稱せらるゝものゝ中には、鳥類、海驢の排泄物及其の屍、鳥卵、魚等の堆積せるものをも含む。

鳥糞を産する島嶼に營巢する鳥は十二種に及ぶも其主要なるは鵜 (*Phalacrocorax bougainvillei* Lesson)、『ペリカン』(*Pelecanus thagus* Molina)、『カツオドリ』(*Sula leucogata* Tschudi)、『ペンタム』(*Spheniscus humboldti* Meyen) 及『ウミツツメ』(*Halobrona garnoti* Lesson) の五種である。

量に於ては鵜が第一で、それに次ぐのが『ペリカン』である、他の三種は大分この二つより劣る。

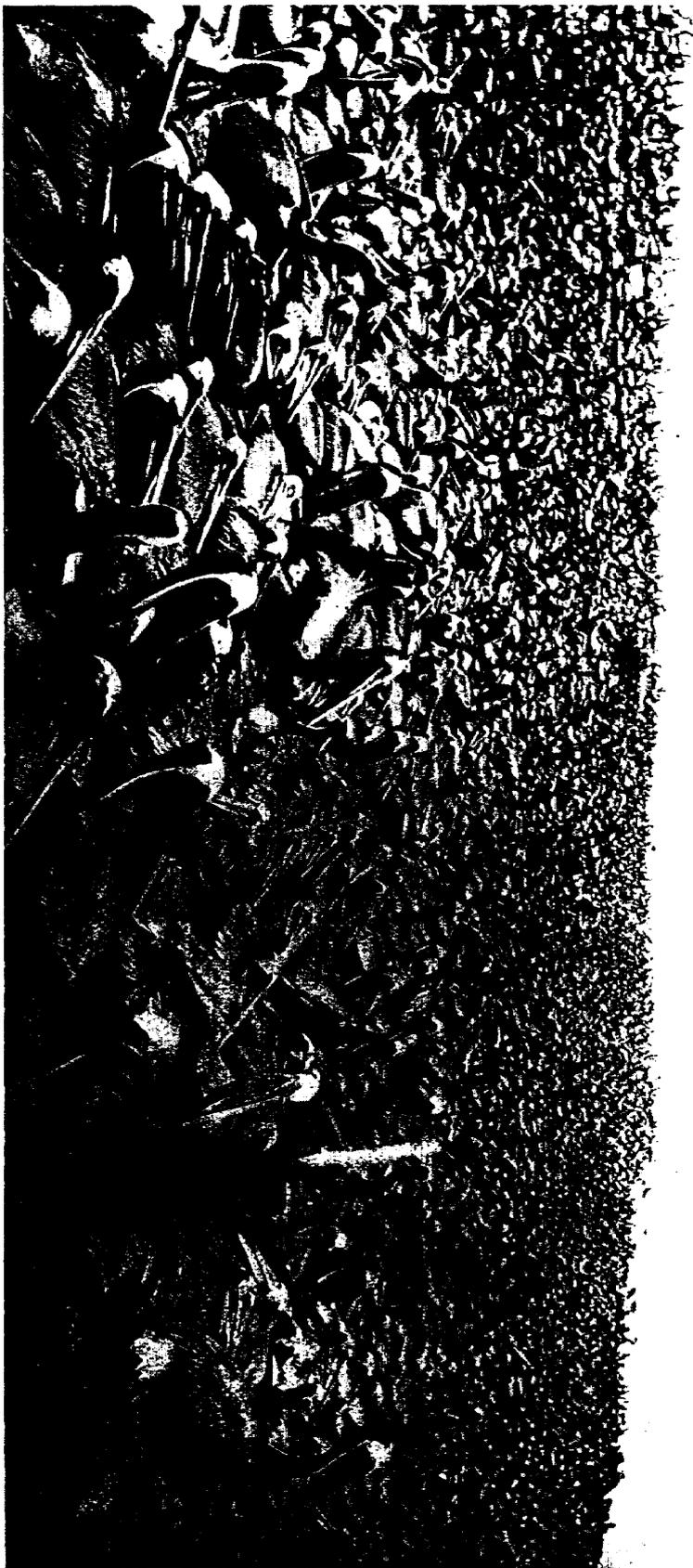
鵜はペルー沿海の、南方に散布する小さな島々に多いが、『ペリカン』は反對に北方の稍大なる島に棲息する

「ペリカン」の最も多い島は ロボス デ テイエラ Lobos de Tierra (南緯六度二十九分、西經八十一度十分)、ロボス デ アフエラ Lobos de Afuera (南緯六度五十九分、西經八十度四十四分) の二つで、口繪に示したるは ロボス デ アフエラ Lobos de Afuera の有様である。

何故に「ペリカン」は斯く北方に多く、南方の鵜の多く棲む、バレスタス Ballestas (南緯十三度四十五分) や チンチャ Chuncha (南緯十三度三十八分) の諸島に住まぬのであらうかと云ふに、元來「ペリカン」は甚だ人を恐れるがため、南方諸島の如く小にして鳥糞採取者の常に群集する所を嫌つて、稍々大なる北方の島に退いたのである。

ロボス デ アフエラ Lobos de Afuera に於ては常に八萬羽位の成熟せる「ペリカン」を見る。彼等は四月頃に産卵し七月頃に其雛が可なりに成長する。而してその繁殖場は不定で島の中の一定した所では無い。

ペルー政府は其一大富源なる鳥糞採取業の前途を頗る憂慮し、是等有用鳥類の保護には甚だ力を盡して居る。最初は採取業の禁止期を設ける目的で是等鳥類の繁殖時期を調査したが、其結果、其時期が區々で又不定である事が明かになり遂に輪採法に依る事にした即ち或る年限を限り、交代、其棲息する島に採取人を入れぬ事とした、政府は其上是等の鳥又は卵を採るものを重き科料に處する事としたが、古くから此等の鳥を食用とし又卵は食用以外卵白にて酒を清澄するため非常なる量に上つたもので、是等の取締には大に困難、たが漸次良果を收むるに至つた。



(平沼口解參  
坂繪說照)

平沼口解參  
坂繪說照

動物學雜誌第廿四卷口繪第  
五